

なんたる星

はだし

迂回

スコラブ

加賀田 優子

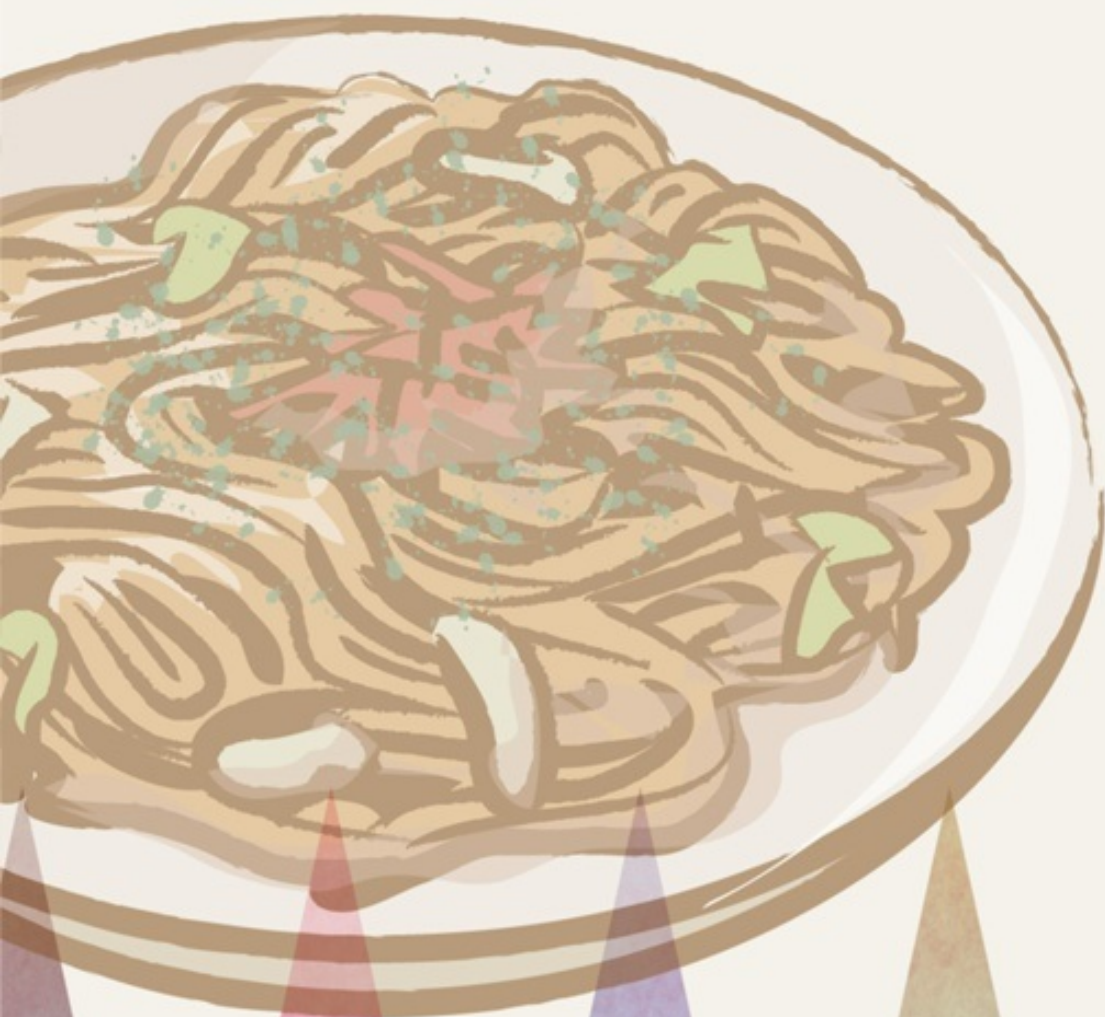
ナイス害

伊舎堂 仁

恋をしている

10

2016.



焼きそば号

【目次】

連作

エッチ・・・迂回

チックとタック・・・スコラブ

庭のあるおんなのこたち・・・加賀田優子

猫クラッカー・・・ナイス害

匂い・・・恋をしている

おしゃべり・・・はだし

焼きそば

くるまで・・・はだし

年末にホームセンターの工具売り場で今の名字を聞いたが、それは忘れてしまった。・・・伊舎堂仁

焼きそばの評・・・迂回

こんな焼きそばは嫌だ・・・ナイス害

シラハマ・・・加賀田優子

かんたんの・・・スコラブ

編集後記

エッチ 迂回

ステップとクリーム跳ねまわるようにあぶない！カッターナイフの落下

Angry Girl チェック柄ばかり追いかけて白くお部屋をくり抜いている

音の出ないクラリネットのうすぎりをしゃぶしゃぶにして息子が育つ

スキップとするどい凶形離れなきやいけないあなたとあなたとわたし

陽だまりで優しく遊び疲れたら寝なさいホチキスは置いてから

やだ叡知！鼻毛カッターさん叡知！浴槽にずっと沈んでいる

意味とかじゃなくなるまで刻んでもいいよ葉がわりにはさみを挟む

四年間暮らし続けたアパートに染みてるにおいこれは焼きそば

ファミマへの道で我が家を振り返るあんなかんじに見えるのか

なんとなくそういう日だからすこし高いポテトも買うし寄付もしている

「お箸おつけしますか?」お願いします「何膳ですか?」(何膳に見えますか?)

ビッグコミックスピリッツなど買った日も寿命は待つてくれないだろう

世界中を敵に回しても守りたいコンビニ袋の水平がある

ぷらすちつくなどとまとめて呼ばれてるPP、PE、PETたち

まばたきを何億すれば死ぬだろう十回ぐらい減らしてみてる

ほう、ほうと鼻の真似してみても自由と淋しいことは同じで

生命の気配のしない夜に食むポリエチレンのような焼きそば

ああ今日も世界を救えなかったと紅生姜など買い忘れては

あかねさす妊婦の腹にクラクション鳴らす運転手の顔をみる

お尻がつめたいのは座りたくなって座ったところが濡れていたから

ミスドにも住んだりしたらドーナツが嫌になったりするんだらうか

売店の列がまいにちおもしろいその子は口をかくしてわらう

いきものの死体を埋めたことのない人がマイクをほんと叩いた

庭のあるおんなのこたちは窓硝子なんてないみたいに庭へ出る

臓器移植カードを栞にしたままで返却されてゆく本 二冊

ペーストになった子犬を売るときは裸足のほうが売れるだらうね

しゃぶられて洗えない袖嗅ぎながら銀杏並木をたらたらあるく

猫寝てるのかとおもって近づくと卵の殻入りのレジ袋だ

猫クラッカー ナイス害

セックスの後のティッシュの雪玉の中の東アジアのにおい

ジャイアントカプリコ殺人事件から二時間が経ち秋陽が逃げる

笑つてね 腕からクラッカーのように飛び出す猫でしたー、うん、猫でした

ポケットティッシュの袋破けば美少女の顔が見事に化け物となる

臭いモノ嗅ぐと爆笑する君の神秘の身体の線はやわらか

さようなら名前を持たぬ音達よ君はもしかして意味意味人？

さらさらと氷は溶けてフとーとく、になりました ふと目が合つて

匂い 恋をしている

人を恋を忘れたことであっちらから光るゾウとその匂いがやってくる

するまでのおぼろかたぶら 今夜中に君に洗濯のメモを渡して

人類は会話中毒 冬靴のかかとを見せるから嗅いでみて

植物とランチのことを話してよそれからどんどん告白するよ

日曜のこれから予定がある昼の窓から匂いながらの性交

プールには一度も行かない2017年なのに匂ってこない？

おじさんはチェックのシャツが大好きで僕は永遠にそれを見ていられた

一度聞いたら忘れてしまう船の名がたくさんあるね あそこであれを買おう

寿司をあまい君の右手で食べたら他にはあんまりなにもいらぬ

代打だな眠いんだけど代打だと君は告げ陽のなかつれて

おしゃべり はだし

ストックの刻んだねぎがなくなつて、少しささやかなうどんです

リモコンを押さなくていいおもしろいテレビがおもしろいのつていい

がたつきはキャスターとして失格で 抱きかかえればおとなしくつて

気にしなくていいよふたつの春巻きをひとりで食べる電気つけない

ピョン吉のまふたでやんすねえ、おやびん 今日のことわすれないでやんすよ

ゴミ箱にヘッドスライディングじゃ、つて感じでかなり失恋でした

沙悟浄が梨を食べずにいたからね、今回は助かったけれども

絶景へむかうやつらのおしゃべりのなかの訛りにポテトを食べて

今年、まだ見てない蛍 YouTube もちろん部屋はまっくらですとも

眼帯の子がエクレーを買ってゆく目が疲れちゃうかもしれないね

寝るまえに田所さんへ電話する 田所さんは聞いてくださる



なんたる星 焼きそば号

真夜中のピッチャーマウンドで食べる焼きそばの濃いところ薄いところ

ナイス書

深いほど色は暗がり焼きそばに箸を差しても良いのか迷う

スコラブ

焼きそばをばらばらにした現場には今でも人が住んでいるという

迂回

緑日の焼きそば光る橋の上もう帰るのって何度も聞いた

スコラブ

「一平ちゃんのモノマネ芸人の四平ちゃんが昨夜ひき逃げに遭いました」

ナイス書

わしづかみみたいな疾駆 ここに居合わせた全員で焼きそばを食う

迂回

慣れかけた道に現る謎祭咳き込んだ神 焼きそばの雨

迂回&ナイス書 (『連歌の花道』月の歌会 H25年 卯月)

焼そばを炒める鉄板あらへんし ふつうじゃない焼きそばが生まれる

はだし (『うたの日』2014/7/22 題「普通」)

くるまで

はだし

焼きそばが好きです。といってもめちやくちや好き、ってわけではなくて。たまに、無性に、カップ焼きそばが食べたくなることがあるくらいです。いまから、コンビニへ行きます。スーパーが近くにないので。コンビニの焼きそばって、少し高めなんですよ。でも最近は、種類が増えましたよね。えらべるのがうれしい。これにしようかな。

やかんに水を入れて沸かしている間に封を開け、ふたをめくって、お湯をたつぷりと注ぐ。そういえば、ここまでの工程で現れるほとんどが、後で捨てられてしまうんですよ。そんな仕組みもおもしろいです。おいしいものを得るためには、無駄におもえることをしたり、なにかを犠牲にしたりしないといけないんだなと思えて。それを経て、わたしはおいしいものを食べられる。

お湯は、豚でいうと臓器や骨なんでしょうね。ってことは、やかんに入れて沸かした、というのを育てたと捉えれば。その行為に愛を持てば、我々は畜産の人々がここに持つてしまうかもしれない悲しみに、少しふれられるのかもしれませんが。お湯を捨てる、のではなく、愛をこめて育てたものを「これから」のために殺めてしまう、ということ。その先にあるのが豚肉であり、焼きそばなのではないかと思います。あ、3分たったみたいですね。キッチンへ行きます。

お湯を、麺が落ちないようにそっとシンクに流すと ベこん と音がして、湯気が立ちのぼってきました。むわっとくる。これは、いったい何なんでしょうね。ソースなどを混ぜて、できあがりです。まだ温かいな。

机の上には焼きそばがあって、コンビニでもらった割り箸がある。作り置きのお茶を冷蔵庫から出してくると、よく冷えていて。これは、いったい何なんでしょうね。コップへ注ぐ。これは、いったい何なんでしょうね。割り箸を割る。これは、いったい何なんでしょうね。いただきますをして、箸をさしこむ。これは、いったい何なんでしょうね。麺を口に運ぶ。これは、いったい何なんでしょうね。おいしい。これは、いったい

だれだろう、宅配かな。

年末にホームセンターの工具売り場で今の名字を聞いたが、それは忘れてしまった。

伊舎堂 仁

ヤンキーでも野球部でもないのに口数、とウケを狙う、が許されている男がいた。中学のときだ。

大吉（だいきち）は名字を川満（かわみつ）と言い、4月の席順で垣元（かきもと）の後ろだったところからとにかく〈トバして〉いて、わりとそんな光景が僕には異様だった。ヤンキーでも野球部でもないのに、と思っていた。

大吉は天然パーマで、なのに若白髪だった。全体的に白いのではなく、後ろ毛の、もじやもじやとボリュームがあるところの先っちょだけツブツブに白い。確かに何かに、たとえたくなる見栄えではあった。そこはそことして、当時、空港とかに貼ってあったオウム信者の写真に顔の感じが似てもいた。家族アルバムのかなり最初のページでお父さんがかけているようなでかい眼鏡で、だけどよくウケていて、彼女もいるということだった。六月だった。

焼きそば、と呼んでみた友だちが大吉に殴られて、昼休みの終わりごろだったので、教室に戻ってきた垣元がなんのケンカなのかを居る人間へたずねた。ケンカではない、と大吉が言った。これが、オチョってくるからがよ。オチョってくるって、何がよ？ 髪のこと言ってきてよ。髪のこと？ 焼きそばって言ってきてからよ。

「焼きそばじゃないば？」

垣元が言った。様子がおかしかった。全員がそう感じたはずだ。

「聞いているば、おア？」

置かれている状況をとらえかねているのか、黙る大吉に二度目の怒号が飛んで、そしてそれは垣元からではなかった。二番目に強い友利（ともり）だった。友利と垣元に詰め寄られる大吉の目を覚えている。まばたきが消えていた。

腹を殴られ、おさえるようにクの字になると、頭部を撲たれた。うめき声のまま白い棚にぶつけられ、背中を蹴られた。つんのめったクの字のまま、前の方のドアから出て行って、それが中学で大吉を見た最後になった。「焼きそばあ！！！！」と垣元か、友利の、どちらかが叫んだ。いつかやるつもりだった、という話をどちらからかその後、聞きもした。

たまに自分でも言ってみるんだけど、勇気が出る。勇気が出て、しまう。

おいしくて、いやすごいおいしかったんです粉ソースとか。ただ言葉にしようってなったときにキャベツの芯を異物感としたいのかどうか、というのが言語化するにあたっては全体の解釈とか随所のテクい部分よりまず先に来たなというところがある。気になったから異物感だってわけではなくて、すごい丁寧に下味つけてあったり、でも歯ごたえは残すくらいの切り方になってたりで「そこを武器にしてやるぜ」という意識がめっちゃあるし、「めっちゃある」の部分を隠そうともしてるけど、微妙にこっちの特に痒くはないところに触れてくるなあって感覚ですね。武器と思わせないように研いでおかないとだめなタイプの武器だったのかなと。

まあ肉と麺噛んでたらそういうのコンマふあー秒で忘れるんですけど。ていうか芯おいしいですよ何したん？くらいになる。粉ソースのちよっときついくらいの偏りがいい頻度で肉に存在してて、それが舌に触れた瞬間の麻痺を突いて全部たたこまれる。麵の微かなソースむら、玉ねぎもやしキャベツの落差と言っていい清涼、とかの本来時系列で感じるべき内容が全て同時並列でくる。文脈としては中華とかジャンクにカテゴリされるんだらうけれど、勢いがーとか油脂感がーとかいう話に落とし込んでしまふと既存のソース界隈の定型に回収されておしまいになりそうで、そうするにはちょ

っと勿体ない作品と思います。フライパンに焦げついた短い麺とかそういう部分から掘れる余地多そうです。

場の話でいうと今回は昼食に自宅で作って食べたんですけど、たぶんこれそういうのだけじゃない気配もあるなーとは思いました。換気扇回しちや台無しな感じがしましたもん回しましたけど。屋外っぽいとか人を求める気配のする調理音。そうめんをいじめてそうだけどあいつはあいつで頑張ってる流しそうめんとかやってるの仲良くやってほしいですね。てことでもしかしたらベストの読み方ではなかったのかもしれないけど、大皿でどかんと置いて取り分けて食べるのは結構ロマン感じてて、このためにトング買うかもしれません。

繰り返しになるけど人を求めてるんだらうなというのがポイントでしょう。刺しにきてるくせに懐っこいような感覚が前提にあって、そのせいでキャベツ芯とかの個体差っぽい部分が目立ったのかなあと。ぶつかってこい小細工するんじゃねえ、がベースにあるやつで、そこからブレると手厳しい。それ以外はわりとなんでもいける幅がありそうですが、舞茸とか入れたらすぐ死んでしまふような気配もある。マズいとかではなく前提を含めた物体として。でも死なせたくない、っていう此方の想いは意に介してくれないようでもあり、まあそうそう壊れないとは思っただけど、考えないわけにもいなくて。場に甘えるんじゃねえよの叫びみたいなフライパン、鉄板から響く音でもしかしたらこの作品の本質なのかもしれない。

こんな焼きそばは嫌だ

ナイス書

「ここが私のアナザースカイ！」と、あびる優が昔焼きそばを万引きしたスーパーに来ているし、なんと七・七だ

能動的三分間を流しながら出来上がりを待っていたら五分かかるやつだ

検察官が罪状認否を読み上げてるけど「焼きそば」というワードが80回でてくる

美食家(グルメ)巻原定男が焼きそばのお店を開いてる

クロレッツ焼きそばミント

娘と公園に来てるけどすごく良い天気！ #山形 #yamagata #地元 #公園 #愛娘 #mamalife #晴れ女 #旦那要らない #焼きそば部 #繋がりたい #セックスレス #週末婚 #鬼女オフ

ワンダと巨像で巨像を倒した後、巨像から伸びてくる焼きそばに襲われる

美食家(グルメ)巻原定男の焼きそばのお店が潰れて補聴器の販売店になっている

うたの日の題詠「焼きそば」で、IPを変えながらただただ焼きそばのレシピを投稿してアク禁になる

井上京子・ブル中野 vs 豊田真奈美・堀田焼きそば

徳永英明が焼きそばのカバーをしている

JUJUも焼きそばをジャズアレンジでカバーしている

モグモグゴンボでヒロミが作った焼きそばを、林家こぶ平が全部捨ててる

ヒロミが大嫌いだ

ゼクシィのCMに出てる女の子、なんだっけ、名前、あれ？なんだっけかな、うーん、あー出てこない、なんだっけ？いや、ググらない！ここまで出てる、なんだっけー、あ！あれだ！ヒロミが大嫌いだ

巻原定男が怪傑えみちゃんねるに出て焼きそばのお店が補聴器販売店になったエピソードを語ってるけど、上沼恵美子から「うちの旦那はそんなこと絶対せんからね！そう、うちの旦那さん東京弁でものすごく上品なんやけど、昨日もね？」と、トークを取られる

吉田美和がドリカムのことを「ドリ」と呼ぶように、焼きそばのことを「焼き」と呼んでいる

焼きそばのことを「ドリカム」と呼んでる元ドリカムの西川

茂木健一郎の息がかかっている

やきそばそば 雪舟えま

白浜が歯を直しはじめたのは、ついにそれが決定した・現実になった、ということで、以来、クラスで白浜の話をするものはいなくなった。

なりかけの、でも確実にほんものになる、という白浜に対して、みんなどう接すべきか決めることができなかった。の、だろう。

あなただってそうになっていたかもしれない。

けれど、あなたはそうならなかった。

それは、あなたのそれもまた限りなく、ほんものだったからだ。

もうかりかりと受験勉強なんてせずともよくなった白浜は、毎日教室に残るあなたにじゃれる。放課後、かりかりかりかりとクラスメイトたちもあなたのように残っていたけれど、病院帰りの白浜がやってきて、あなたの前の席の椅子をぐるりと回転させ、座り、足をつ一、とのぼしてあなたの少し長めのスカートをめくりはじめたりなどするものだから、みんな視線がしだいにふら、ふら、ふらふら、と、そのまま徐々に外に出て行ってしまふのだ。

「どお」

そういつて、白浜は口を(い)のかたちにしてみせる。

もうほとんど整列している白い粒・粒があなたの目に映る。

まにあいそうだね、とあなたは思い、問十二の三の回答を書きこんでから同じことを声にのせる。

白浜の歯はうらがわから直されていて、口を(あ)のかたちにしてもらってから頭をぐんとうしろに反らせたところを覗きこめば、銀色の線が彼女のちいさなカーブに沿ってはしっているのがみえる。

はじめの頃のあなたは、どうせならみえるように、白浜の鍾乳洞みたいなでこぼこのを銀の紐でぎゅうっと縛ってあるようにみえるように、わかるように、直してほしい、と何度も思い、二回ほど声にも出した。

その時の自分の声を頭に響かせてみながら、あなたは答えあわせに移る。

白浜はあなたのショーツを脱がそうとしている。

半分ほど答えあわせをすすめたあなたは、白浜が入りこみ、ひらかれていた膝をゆるくとじる。

ふとももに、白浜の頬骨の感触がある。

最初は軽く、だった力をいきなり強く、膝をとじることこそそぎこむと、白浜がぶふう、ぶふう、と呻きはじめ、その唇のはしから飛ぶ唾液でふとももがぬるぬるする。

ん、ぱっ、という息継ぎの音とともに、白浜がスカートの中からぬけだした。

髪の毛が数本千切れたのか、ふとももには細く触るものの感じがまとわりついたままだ。

あなたがやっと笑う。ので、白浜は怒る。

ばか、ゲロ、マxx、xスxx、xxxン、と、だいたいの悪態をついて、唾液を拭う。

あなたはおしまいまで答えを確認する。

次の過去問に移る。

シャーペンをカチ、と押して、芯を伸ばし、薄くノートにあてる。

白浜は乱れた顔や髪を手でなんとかしようとしている。

口が半開きになり、また唾液が垂れてきそうな白浜。両手首にひとつずつのシュシュで左右に髪を結んだり、ぐちゃぐちゃのお団子にしたり、ポニーテールにしたりしている彼女を、あなたは目の上の部分で観察している。

ポニーテールをほどいて、もう一度結んで、白浜は口をきゅっと閉じた。

「終わったら」

そしてすぐに開けてしまうところが白浜だ。

「ヤキソバ食べるわ」

あなたは一気に想像し、一問、たぶん、間違える。

けれど解き続ける。

腹が鳴って白浜が笑い転げる。

それであなたも笑っているような気になって、その前に囁んでもらおうかな・シラハマ、と、同時に思い、そのどちらも声にしようとしない。

ふとももにくっついていて白浜の髪の毛がゆっくり、途中からはよくなって落ち、足首のあたりをする、と撫でた。

Saito——短歌を詠んでみませんか？

唐突な誘いだなあ。そう思いながら、ケトルからペヤングソース焼きそばの白い容器に湯を注ぎつつ、もう片方の手でやんわりと興味のない旨を返信する。

Saito——短歌は意外と簡単なんですよ。

ペヤングができるよりも前、三分と経たずそんな返信が来た。いや、そんな話はしていない。簡単かどうかではなくて、そもそも詠みたいか否か、もっと言えば俺が詠むことになにか意味があるのか、そういうことを言いたいだけけれど。

Saito——いま身の周りにある題材で詠んでみてはどうでしょう。例えば、焼きそばとか。

……ん。焼きそば？

Saito——単に焼きそばとしても良いですが、例えばペヤングといった固有名詞を用いてみると具体性が出て、深みのあるものになるかもしれません。

……さてよ、見えているのか？

Saito——なんのことでしょう。それより、もう三分が過ぎたのではないですか？

確かに、三分を十秒ほど過ぎた頃だ。お湯を捨てなければ……いや、そうではなくて、確実に見られているのだが、これはどういうことだ。

ひとまず、お湯を捨てながら気持ちを落ち着かせてみる。こういう時ほど、普通に今しようとしていたことを続けるのが良いのだ。

Saito——さて、一息ついたところで、短歌、できそうですか？

……そんなことより、なぜ俺の行動がわかる？

Saito——簡単なことです。もともと私とあなたは、ひとつであった。

Saito——ある時点で、分岐をしたのです。あなたは、短歌を詠まない未来を生きている私の姿なのです。

Saito——私の短歌には足りないものがありました。それは、ある時に分かれた短歌を詠まない私。今の私は、例えるなら味のない焼きそばの麺といったもの。つまり、あなたというソースともう一度合流することで完全になるのです。さあ.....。

.....それが私こと、斎藤ソース焼きそば（筆名）の歌詠みの始まりであった。それから三十年程は経つたろうか。幸いにしてひとかどの歌人にはなれたのではないかと自分では思っている。

ある晩、結社誌の選歌をしていて、ふと小腹が減ったことに気づき、湯を沸かす。すると、湯気が視界を覆うように立ちのぼり、次第に意識が遠のくのがわかった。

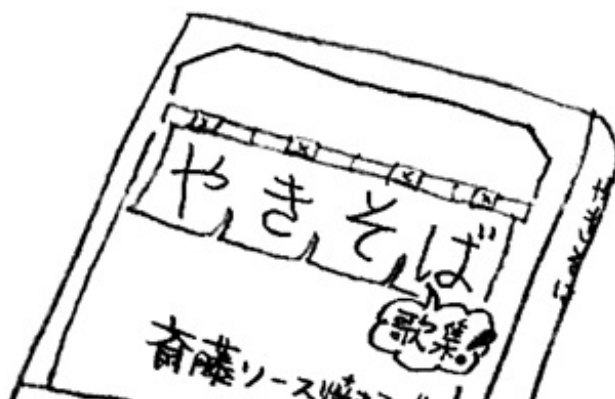
気づくと、そこは三十年前の自室で、どうやらペヤングの箱を枕にして眠っていたようだった。

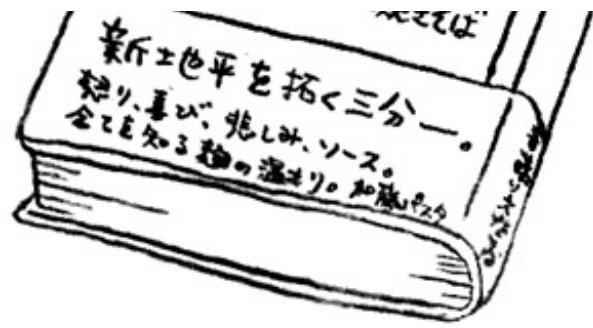
長い長い夢を見ていたのか。しかし夢の中で詠んだ短歌は覚えている。そうだ、これから、それを世に出していけばいい。

斎藤ソース焼きそば「——というコンセプトで作ったものが、この焼きそば歌集なんですけど」

ぼく「焼きそば歌集」

本気だった。





【編集後記】

「焼きそばの唄」

作詞：恋をしている

土曜の昼に出てくるのは決まってソース焼きそば
家族の誰かが一番好きとかじゃないけど焼きそば
食べられるだけマシでしょとあなたがつぶやくから
絶対文句は言わないそれが二人のルール

※おいしい焼きそば 東京は寒い(TOKYO SAMUZORA RAIL WAY)
おいしい焼きそば 君は苦手な恋を(DACHINANONI)

とても僕には身に余るよな
大好きな 紅しょうが

(※繰り返し)

だけど一番大好きなのは
東野圭吾の本

2016 10/15 恋をしている

The aged people who gave a spear to Katsumata "it was failure and, by putting it
and rolling up the sleeves at cards, MUKATSUKU"

執筆者

はだし(@sunsetsan0)

ナイス書 (@NiceGuuuy)

恋をしている (@yayoikenumai)

スコラブ(@scope_scape)

加賀田優子 (@0ccak)

伊舎堂 仁 (@hito_genom)

迂回 (@ukaian)

なんたる星10月号

発行日：2016年10月15日

編集発行人：恋をしている/迂回

表紙：スコラブ

Twitter：@nantaruhoshi

Mail：nantaruhoshi@excite.co.jp